

令和8年2月13日

保護者の皆様

碧南市立棚尾小学校
校長 小島 広明

令和8年度 5年生・6年生における「学年担任制」「教科担任制」の導入について

晩冬の候 日頃は本校の教育活動にご理解、ご協力を賜り厚く御礼申しあげます。

本校では、令和7年度に5年生・6年生を対象に「学年担任制」及び「教科担任制」を導入しました。「学年担任制」は、毎日の朝の会や帰りの会、給食指導などの学級担任業務を複数の教員で分担する仕組みであり、碧南市教育委員会の指導助言を受けながら進めてまいりました。若手教員やベテラン教員、育児等事情のある短時間勤務者、非常勤教員等、複数の教員が連携し、互いに協力し、各々の強みを生かし、補い合いながら学級経営や教科指導を進めていくものです。「教科担任制」は、2022年度から文部科学省の方針で導入が始まり、中学校のように教員が特定の教科の指導を専門的に行う指導体制のことです。どちらも、複数の教員で子どもたちを見取り、学級間の指導の差をなくすことで、安心して学校生活を送ることができるようになります。一年間の取組の中で、個別懇談や学校評価アンケート等を通じて保護者の皆様からご意見を頂戴してきました。メリットとして、多くの先生と関わることができる、子どもが中学校入学への不安が少なそうにしている、デメリットとして、相談先が分かり辛い、子どもや保護者との関係が希薄になる、などの声が寄せられました。メリットは継続し、デメリットは改善策を講じることで、よりよい仕組みとなるよう努力してまいります。

つきましては、現在検討している案を保護者の皆さまにお伝えさせていただき、ご意見、ご質問等をお聞かせ願えればと思います。ご理解、ご協力をお願いいたします。

記

1 めざす効果

- (1) 担任のローテーション及び教科担任制により、学級間での指導の差がなくなり、子どもたちが安心して学校生活を送ることができるようになります。
- (2) 子どもたちや保護者の皆様が相談できる教員が増えることにより、これまでよりも相談しやすい体制をつくるようになります。
- (3) 個々の子どもを複数の教員で見取ることにより、教員が子どものよさや変化に気づく機会が増えるとともに、子どもたちにとって自分のことを知ってくれている教員が増えることで、安心感をもたせるようにする。

2 対象学年

- (1) 令和8年度の5年生、6年生での導入を予定しています。
- (2) 特別支援学級及び4年生以下は実施しません。

3 学年担任制のイメージ

	1組	2組	3組	○教員4名でチームを組み、3学級を担当する。 ○学年内の教員が教科を分担する「教科担任制」と、専科教員の行う「専科授業」を組み合わせて授業を行う。 ○学級担任をローテーションする。 <改善策> ◇D先生を副担任とする。
1、2週目の担任	A先生	B先生	C先生	
3、4 ツ	C	A	B	
5、6 ツ	B	C	A	
7、8 ツ	A	B	C	

4 令和7年度に実施してみたメリット、デメリットについて

(1) メリット

- ア 学級間での指導上の差が少ない。
- イ 子どもたち、保護者ともに、自分に合った教員に相談すること機会が増える。
- ウ 子どもたち、保護者からの相談を複数の教員が受けることができるため、出張や勤務の都合に関わらず早期対応しやすい。
- エ 子どもたちがいろいろな教員とつながり、視野をひろげやすい。
- オ 担任の誰かが出張等で不在時でも基本的な担任業務に支障が出にくい。
- カ 学年担当教員が、学年の子どもたちの名前と顔を覚えているため、学級を問わず声をかけやすい。

(2) デメリット

- ア 子どもや保護者と担任とのつながりが薄くなる。
- イ どの教員に相談したらよいか分かり辛い。
- ウ 先生たちの連携不足を感じる。
- エ 効果があるのか、ないのか分からぬ。

5 Q & Aについて（＜改善策＞は令和7年度のご意見をもとに考えたもの）

（Q 1）これまでのような担任の先生への相談は、誰にどのようにしたらよいでしょうか？

（A 1）その時の担任あるいは学年担当教員に相談してください。相談内容によって、学年内（校内）で共有させていただき、対応していきます。また、その時の担任に相談しにくいような内容の場合は、学年担当教員なら誰に相談していただいても構いません。

＜改善策＞そのときの担任が誰なのかを、紙媒体でもお伝えしていきます。

（Q 2）担任の先生がローテーションすることで、子どもが不安にならないでしょうか？

（A 2）担任がローテーションすることで不安を感じことがあるかと思います。少しでも不安を和らげるよう、以下の3点を中心に取り組んでいきます。

- ①学年担当教員同士が子どもにかかわることを確実に情報共有する。
- ②教科担任制を取り入れることで、各学級の情報を複数の教員の目で直接把握できるようにする。
- ③子どもたち、保護者からの相談は、学年担当教員の誰でも受け、対応できるようにする。

＜改善策＞

- ④行事等によって、ローテーションの間隔を調整することで、子どもたちとの関わりを強くし、よりよい行事となるようにしていきます。

（Q 3）高学年で導入する理由は何でしょうか？

（A 3）中学校へ進学した際の環境の変化への適応に悩む「中一ギャップ」を緩和することがねらいの一つです。教科担任制では、中学校と同様に、教員が教科を分担することで、教員一人当たりの担当教科数が少なくなるため、授業準備に深く集中でき、授業の質を上げることが期待できます。また、学年担任制では、担任業務をローテーションすることで、子どもたちが相談できる教員が増えます。学年が上がるにつれて、同性の方が相談しやすいケースも増えてきます。このようなことから、高学年での導入を検討しています。

＜改善策＞4年生から、学年内の授業交換を導入します。これは、学級担任同士が特定の教科を担当し、自分の学級だけでなく、同じ学年の他の学級も指導する仕組みです。高学年へスムーズに進級できるようにすることがねらいです。

(Q 4) 担当の教員によって学級づくりのやり方に差があると、子どもが戸惑わないでしょうか？

(A 4) まず、年度当初に学年集会を行い、学年としての基本的なルールや共通して指導することなどを子どもたちに伝えます。教員同士では、当番や係活動などについて話し合い、共通して進めることを明確にしておくようにします。学年担任制を進めていくなかで、子どもたちがこれまでよりも多くの教員と出会い、様々な考え方ややり方を経験し、これから中学校への進学や大人になっていく過程で自分の生き方や考え方の糧にしていくことにつながればと考えます。

(Q 5) 子どもたちのことについて、学年担当教員で十分情報共有できますか？

(A 5) これまでも、学年担当教員で子どもたちの学習状況や生徒指導など様々なことについて話し合い、情報共有することに努めてきました。しかし、学年担任制は、教員にとって次は隣の学級を担任することになるわけですから、隣の教員の指導や学級経営について一層意識していくことになります。子どもたちの変化や成長についても自然に意識し、一人一人の教員が学年の子どもたち全員を自分の担当として捉えるようになります。また、保護者から次の担任に伝えてほしいことや引継いでほしいことについても、次の担任が同じ学年にいるわけですから、日常的に情報共有や引継ぎができます。

＜改善策＞①学年担当教員による定例打ち合わせ会を設けます。担当全員で進捗状況や情報共有を行います。

②各教員の役割を明確にします。例えば、学習担当、生活担当のように体制をつくり、子どもたちや保護者の皆様に周知することで、誰に相談すればよいか分かりやすくします。

(Q 6) 生徒指導上の課題が起きたときの対応は大丈夫でしょうか？

(A 6) 生徒指導上の課題が起きたときに、さらに悪化したりエスカレートしたりする原因の一つに、担任が一人で抱え込んでしまい、発見や対応が遅れたりすることがあげられます。学年担任制では、複数の教員の目で学級や子どもたちを見取ることをねらいの一つとしていますが、一人の教員がもし気づけなかったとしても、別の教員たちが気づくことで、早い対応につなげられると思います。また、その後の対応も、学年担当教員が、情報共有しながら知恵を出し合い、より効果的な対応につなげることができると考えます。

＜改善策＞①出張等でそのときの担任が不在の場合でも、他の学年担当教員が対応します。

②できるだけ複数の教員が関わることで、多様な子どもたちの状況に合わせ、一人一人にきめ細やかな指導をすることを目指します。

(Q 7) 個別懇談はどのように行われるのでしょうか？

(A 7) その時の担任が行います。懇談の場で伺った内容は、学年担当教員で共有させていただき、対応が必要な場合は対応していきます。また、その時の担任以外の教員との懇談のご希望がある場合には、別日になりますが、日程を調整のうえ対応させていただきます。

＜改善策＞①懇談の直前になって担任がローテーションしてしまうことのないよう、間隔を調整するようにします。

②個別懇談の案内状に懇談する担任名を記載するようにします。

(Q 8) 教員への負担が大きくならないでしょうか？

(A 8) これまで、一人の教員が一つの学級の担任をし、一人の教員がほとんどの指導をしてきました。今回、学年担任制を導入することで、一人の子どもに複数の教員が関わることができるようになったり、若い教員とベテランの教員の経験の差をカバーしたりすることができ、子どもたちや保護者、教員の双方にメリットがあると考えています。

導入からまだ2年目の仕組みですので、教員の負担があると思います。引き続き、子どもたちや保護者の皆様のご意見を伺い、検証し、よりよい形を作っていくことで、負担も徐々に軽減していくものと考えます。

(Q 9) 学年担任制はこれからも続けていきますか？

(A 9) 基本的には続けていく見通しです。ただし、このシステムで課題などが見られた場合、子どもたちや保護者、碧南市教育委員会からの意見や助言を受けながら改善を図っていく必要があります。また、国や県、市の施策で改革が行われる場合も柔軟に対応していきます。いずれにしても、子どもたちの成長にどうつながったのか、成果と課題は何なのかを検証しながら、よりよい形を作っていくことが重要だと考えます。

6 今後について

児童及び保護者の皆様からのご意見・ご質問をふまえ、教職員で協議し、碧南市教育委員会の指導助言をいただいたうえで取り組んでまいります。

7 この件についてのお問い合わせについて

ご意見・ご質問などにつきましては、令和8年3月3日（火）までに、学級担任または教頭、教務主任（電話 41-0993）までお知らせください。